

平成 27 年度事業報告

(一社) 日本交通科学学会 平成 27 年度事業報告書

新法人化 3 年目を迎えた平成 27 年度の「一般社団法人 日本交通科学学会」の業務実績は以下の通りである。

第一 会議の開催

1 第 51 回定期総会

番号	事項	内容	結果	備考
平成27年6月20日(土)、秋田大学手形キャンパス 60周年記念ホール(秋田県秋田市手形学園町1-1)で開催された。 以下の議題について審議し、原案通り可決承認された。				
<審議事項>				
第1号	平成27年度事業報告及び収支決算の件	平成26年度事業報告書(案)、同収支計算書(案)及び財務諸表(案)、監事監査報告書をもって報告。	承認	
第2号	役員選任の件	新役員候補者名簿等をもって、理事・監事(退任及び新任 各6名)及び顧問(新任3名)の異動について報告。	承認	
第3号	定款改正(事務局業務の移行等)の件	事務局機能をへるす出版事業部へ移行(外部委託)する案件及びこれに伴い定款改正を要することについて、事務局移行覚書・定款改正(案)をもって報告。	承認	新事務所での業務開始は、平成27年7月1日。
第4号	感謝状の贈呈について	前出第2号議案に伴い退任する理事2名(大久保会長、樋口理事)、及び第3号議案に伴い退任する旧事務局関係者4名(松尾特認顧問、扇総務課長、故・安田協力者、栗田協力者)について、その在任中の功労に対し感謝状の贈呈を行う。	承認	大久保前会長については有賀新会長名での贈呈となるため、次期理事会承認事項扱いとなり、その他5名(故人1名を含む)に対する贈呈が引き続き行われた。
第5号	次期第52回日本交通科学学会総会・学術講演会会長の選任の件	第52回(平成28年度)総会・学術講演会会長として、三林洋介氏(公立大学法人首都大学東京都立産業技術高等専門学校 教授)。	承認	
第6号	提言の件	資料(文案)に基づき有賀副会長より「救急車に『再帰性に富んだ反射板』の使用を！」と題する提言を関係各方面に今後行っていくことが提案された。	承認	
第7号	会員異動の件	資料に基づき、平成27年度会員の異動状況について報告。(平成26年度末の在籍は普通会員356名、学生会員10名、賛助会員71団体=計437。入会16件、退会15件により、前年度+1)	承認	
<報告事項>				
報告1	平成27年度事業計画と収支予算書	平成26年度事業計画書・平成27年度収支予算書により報告。	—	
報告2	第51回総会・学術講演会の開催スケジュール	開催中の同大会について、資料に基づき報告。	—	
報告3	平成27年度優秀表彰論文推薦等の件	資料に基づき、優秀講演発表奨励賞表彰内規制定について報告。	—	
報告4	4. 臨時理事会の開催について(会長・副会長の選任)	第七代会長(代表理事)に有賀徹副会長理事を、また副会長に小野古志郎・阿久津正大の両理事を選出することについて、今後書面審議による臨時理事会を速やかに行い決定する意向である旨、総務担当理事より報告。	—	※各人の肩書等については、当該総会前のもの。

2 理事会

第124回(6月16日:定例)、第125回(6月23日:書面による臨時)、第126回(3月29日:定例)を開催。それぞれの審議の状況は、下記の通りである。

(1)第124回理事会 日時:6月16日(火)

会場:アルカディア市ヶ谷(私学会館)7階会議室(第51回評議員会も共催)

番号	事項	内容	結果	備考
<審議事項>				
第1号	平成26年度事業報告及び収支決算の件	総務担当理事から平成26年度の事業実績について、総会・理事会、諸会議、研究調査事業、啓発事業等の実績を説明。続いて平成26年度収支計算書(案)について、本年度は120.1万円の赤字決算となったことを説明。これらの決算処理について、監事が欠席のため、監事監査に立会った総務担当理事より、業務の執行及び会計の処理が適法・適正に行われていると認めたとの報告。	承認	
第2号	平成27年度収支予算(修正案)の件	事務局より、平成26年度収支予算修正案を説明。これは平成26年度の予算の策定に際して平成25年度決算数値が確定しない仮置きでの決算額で策定されていたこと及び事務局業務の移行による予算額見直しが行なわれたために、本理事会で修正案として審議されたもの。	承認	
第3号	第3号議 役員選任の件	役員選考委員会委員長の村田理事(当時)より以下の通り説明。 平成27年4月16日に平成27年度役員選考会が開催され、下記の役員(理事の再任、新任、監事の新任、顧問の新任、評議員の新任)の候補者が選考された。 〔理事再任候補者24名〕有賀 徹、阿久津正大、浅井康文、石川 正、石田敏郎、上田守三、大倉元宏、小野古志郎、加来信雄、小濱啓次、齋藤直也、坂本哲也、三林洋介、塩田 透、津久井一平、内藤政彦、南部 實、西村明儒、野口 宏、信川益明、一杉正仁、水戸部一孝、山内春夫、山木垂水 〔理事新任候補者5名〕深田一政、大久保具明、三宅康史、吉田 茂、吉村俊哉 〔監事新任候補者1名〕村田隆裕 〔顧問新任候補者3名〕大久保堯夫、高津光洋、樋口忠夫 〔評議員新任候補者6名〕稲垣具志、馬場美年子、松村美穂子、楢 徹雄、松井靖浩、本宮嘉弘	承認	理事・監事の就任候補者については第51回定期総会にて候補者個別に審議の後、就任が議決される。
第4号	定款改正 (事務局業務の他機関への移行等)	資料に基づき、総務担当理事が以下の通り説明。		
	(1)交通科学学会事務局の移行	第123回理事会において本学会の現事務局を閉所し、事務局業務を下記の事業者に移行する(移行先との覚書資料あり)。 事業者名:株式会社へるす出版事業部 所在地 :〒164-0001 東京都中野区中野2-2-3 事務局移行年月日:平成27年7月1日		説明の後に本理事会に出席されていた、へるす出版事業部の平田氏から挨拶があった。
	(2)事務局移行に伴う定款改正について	①第2条(事務所)関係「第2条 本会は、事務局を東京都千代田区に置く。」を「第2条 本会は、事務局を東京都中野区に置く。」に改正。 ②第38条(事務局)第2項関係「事務局には、事務局長及び必要の職員を置く。」を「事務局には、事務局長及び必要の職員を置くことができる。」に改正。 ③補則関係「4. 第2条及び第38条の改正は、平成27年7月1日を開始日とする。」	承認	第51回定期総会にて審議。 " "
第5号	優秀論文表彰等の件			
	(1)感謝状の贈呈(案)	永年にわたり理事・学会長として、学会の発展向上に多大な貢献、国内外の交通安全施策への提言などで強いリーダーシップを発揮され大きな功績をあげた大久保堯夫(会長)、樋口忠夫(総務担当理事)へ感謝状を贈呈。 また、事務局業務移行により退任することとなった松尾有祐(特認顧問、元事務局長)、扇 己美子(総務課長)、栗田紀子(業務協力者)、故 安田智美(業務協力者・平成27年3月に逝去)の4名に永年の学会運営尽力と労苦に謝意を表して感謝状を贈呈。	承認	大久保堯夫会長については学会長を退任するので、新学会長が決定次第、新会長名で感謝状を贈呈する。
	(2)優秀講演発表奨励賞表彰内規制定等(案)	「優秀論文表彰内規」を一部改正し、平成27年6月17日から施行。 「優秀講演発表奨励賞表彰内規」を新しく平成27年6月17日に施行。		
第6号	会員の異動の件	資料に基づき平成27年3月7日～5月31日までの会員の異動状況について説明。 5月31日現在の会員数は420名/団体(普通会員354名、学生会員7名、賛助会員59名/団体)。	承認	
第7号	臨時理事会の開催について (会長・副会長の選任)	本総会にて大久保会長、村田副会長、高津副会長が退任することにより新たな会長・副会長を選任する必要があるが、総会の直後に理事会を開くことは定足数の問題もあり困難なため、書面審査にて行うことが提案された。	承認	

<報告事項>				
報告1	第51回総会・学術講演会の開催スケジュール	第51回総会・学術講演会は、6月20日から21日に秋田大学手形キャンパスにて開催。	-	
報告2	次期 第52回日本交通科学学会総会・学術講演会会長選任の件	第52回日本交通科学学会総会・学術講演会会長は、公立大学法人首都大学東京 都立産業技術高等専門学校 三林洋介教授が推薦された。	-	正式には第51回総会にて審議決議される。
報告3	資料「(案)提言:救急車に「再帰性に富んだ反射板」の使用を！」	有賀副会長から、緊急自動車を使用して活動する救急隊員や医師、看護師や患者らの安全を確保し、二次災害を予防するためにも救急車などの緊急自動車に視覚的に有効な反射板を使用すべきである、と日本交通科学学会から関係団体と共同で関係省庁や団体などに対して提言していくこととするとの説明があった。	-	この件は第51回総会にて審議事項として審議されることとなった。

(2) 第125回理事会[書面による臨時理事会] 日時:6月23日(火)

★全理事合意で原案通り承認されたので「一般社団法人及び一般財団法人」第79条、及び定款第35条第2項に基づき有効な理事会議決として成立した。
(審議事項)

番号	事項	内容	結果	備考
<審議事項>				
第1号	会長の選任	候補者:有賀 徹 理事	承認	
第2号	副会長(2名)の選任	候補者:阿久津 正大 理事/小野 古志郎 理事	承認	

(3) 第126回理事会 日時:3月29日(火)

会場:首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス

番号	事項	内容	結果	備考
<審議事項>				
第1号	平成27年度事業報告(中間)及び収支報告(案)の件	①事業報告 ②研究報告 ③決算(中間報告)案	承認	
第2号	平成28年度事業計画 及び収支予算書(案)の件	①事業計画 ②研究計画 ③予算案	承認	
第3号	各委員会など組織体制の件	運営及び研究事業遂行のため、[資料3]の通り継続的に委員会を設置し、事務局と連携して任に当たることとしたい。実質上、平成27年6月総会前より活動を行っているが、役員更改に伴い若干のメンバー入れ替えと、組織図的な関係について明示することとしたい。	承認	
第4号	賛助会員等の組織を代表する理事に関する臨時措置の件	理事の新任は総会の承認事項であるため(定款 第13条の(3)参照)、次期総会までの間は後任候補者を暫定的に「外部相談役」として理事会等の行事に出席要請し、総会にて正式就任の決を待つこととしたい。	承認	(法的な抵触を避ける意味も含めて)
第5号	副会長の追加指名の件	現在の工学系2名の副会長に加え、下記の2名を追加就任させたい。 三宅 康史 (みやけ やすふみ:昭和大学医学部救急医学講座 教授) 一杉 正仁 (ひとすぎ まさひと:滋賀医科大学社会医学講座 法医学 教授)	承認	会長の円滑な業務執行上の事由により、また医学系副会長が未決定であったことから、
第6号	大久保前会長への感謝状(現会長名による)贈呈の件	第124回理事会及び第51回総会について基本的には了承された事項だが、新会長・有賀 徹 名義での贈呈となるため、改めて次期審議事項に加えることとされた経緯のものである。これについて改めて、お諮りしたい。	承認	
第7号	優秀論文表彰内規の一部改定の件	2 表彰対象論文 [現行]①本会総会・学術講演会で発表し、かつ本会又は他の学会の機関誌等に掲載された原著論文とする。 →[改定案]ただし書きを追加。 ①本会総会・学術講演会で発表し、かつ本会又は他の学会の機関誌等に掲載された原著論文とする。 但し当面は、本学会誌に掲載された原著論文等とする。 付 則 この規程は、平成28年*月*日から施行する。 (※理事会承認日を記載)	承認	[提案の理由](表彰審査委員長より)最近の傾向として、「総会・学術講演会で発表した論文を学会誌に掲載されることが少なく、発表なしでの原著論文としての投稿が多くなっている。学会としては、学術講演会での発表の後、原著論文等への投稿が望ましいが、「学会の活性化の促進」という観点から、当面、内規を上記のように改訂(ただし書きの付記)しては如何か。(現行の内規に準じて選考すると、今年度も対象論文は非常に僅少なのが実態である。)
第8号	慶弔ガイドライン制定の件	別紙の通り、今後取り扱うこととしたい。これは従来、旧事務所体制下において慣例に行われてきたことと思われるが、体制変更に伴い運営サイドの共通認識として明文化しておきたいという事由による。	承認	
第9号	次々回(第53回)総会・学術講演会会長選任の件	昨年末(平成27年12月25日)開催の平成27年度第4回運営委員会において、一杉 正仁 理事(滋賀医科大学社会医学講座法医学 教授)を大会長に推す案が提出されている。これについて、お諮りしたい。	承認	
第10号	会員異動等の件	◎現時点の会員数 普通会員 377名、学生会員 11名、賛助団体 71団体 計459名/団体	承認	●平成27年6月21日以降の入退会者等の状況 入会者(普通会員21名、学生会員1名、賛助会員1団体) 退会者(賛助会員1団体)

3 評議員会

第 51 回評議員会が平成 27 年 6 月 16 日(火)、前記第 124 回理事会と共催された。(審議内容は、第 124 回理事会審議事項を参照)

4 幹事会

新法人発足とともに常任理事会が廃止されたことから、この組織に替えて幹事会を新たに設置し、本学会会長を委員長とし理事・監事に加え、出席を希望する顧問・評議員等を委員として平成 25 年度からスタートした。平成 27 年度は 2 回開催(うち 1 回は予定)。

(1) 第 5 回幹事会(6/3(水))

第 124 回理事会及び総会に提出する議案すべてを審議し、原案通り承認された。
(審議内容は第 142 回理事会と同じため、省略。)

(2) 第 6 回幹事会(3/11(金))

第 126 回理事会に提出する議案について、すなわち平成 28 年度事業計画、同研究計画及び収支予算(案)等を審議。

第6回幹事会 日時:3月11日(金)

会場:首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス

番号	事項	内容	結果	備考
<審議事項>				
第1号	平成27年度事業報告(中間)及び収支報告(案)について	①事業報告 ②研究報告 ③決算(中間報告)案	承認	
第2号	平成28年度事業計画 及び収支予算書(案)について	①事業計画 ②研究計画 ③予算案	承認	
第3号	組織運営体制の整備等について	(1)各委員会など組織体制の件 (2)賛助会員等の組織を代表する理事に関する臨時措置の件 (3)副会長の追加指名の件 (4)大久保前会長への感謝状(現会長名による)贈呈の件 (5)優秀論文表彰内規の一部改定について (6)慶弔ガイドライン制定の件	承認	
第4号	次々回(第53回)総会・学術講演会会長の選任について		承認	
第5号	会員異動等について		承認	

5 平成 27 年度役員選考委員会

役員(理事・監事)の改選時期に当たるため役員選考委員会を設置することが承認され、会長より次の 13 名が委員会委員として指名された。

委員：村田隆裕(委員長)、阿久津正大、石川正、大倉元宏、小野古志郎、三林洋介、津久井一平、信川益明、樋口忠夫、一杉正仁の各理事 及び都築正和監事、吉田茂、吉村俊哉の各評議員

これを受け平成 27 年 4 月 16 日に平成 27 年度役員選考会が開催され、役員(理事の再任、新任、監事の新任、顧問の新任、評議員の新任)候補者が選考され、第 124 回理事会で報告された(候補者名は第 124 回理事会の項を参照)。

6 各委員会の活動状況

●7 月より運営役員・事務局共に新体制となり、事業の継続と今後の発展を考える上で当面、事務局任せにせず各委員会がリードを執って積極的に推進に当たることの重要性は高まっているものと考えられる。

これに鑑み平成 27 年 8 月以降、再度各委員会の構成と役割分担などを見直し、また組織図と名簿を「見える化」して運営役員間の情報共有を図るなど努めてきた。

平成 27 年度における運営系各委員会の主な活動状況は、資料 報 2-2 別表(p. 30~38)の通りである(順不同)。

第二 調査・研究の実施

1 第51回総会・学術講演会開催

第51回となる日本交通科学学会総会・学術講演会は去る平成27年6月20～21日、本学会としては初の開催地となる秋田県で、水戸部一孝大会会長（秋田大学大学院工学資源学研究所教授）のもと秋田大学手形キャンパス60周年記念ホールにおいて開催された。

これに先立ち、前日（19日）にはオプションプログラムとして、秋田大学医学部附属病院シミュレーション教育センターにおける施設見学が催され、人体型高機能シミュレータやバーチャルリアリティー手術研修の設備、また交通事故調査用3Dレーザースキャナーのデモ等、最先端の語術が参加者に披露された。

総会・学術講演会の概要は以下の通りである。

- (1) 基調講演「自動運転とは何か ～自動運転技術、高齢ドライバーの時代を迎えて再考する～」
- (2) 会長講演
- (3) 特別講演「ヒトの視点から乗り物社会における交通科学に関わる諸問題について」
- (4) パネルディスカッション
 - ①交通安全教育 5テーマ
 - ②超高齢社会の光と影 5テーマ
 - ③交通弱者保護のためのこれからの技術 4テーマ
- (5) ランチョンセミナー：「予防できる死を俯瞰する」
- (6) 一般演題
 - ①車道横断と事故防止 6テーマ
 - ②ドライバーと交通安全 6テーマ
 - ③緊急対応と情報支援 6テーマ
 - ④事故事例と要因解析 8テーマ

2 委託事業(一般社団法人 日本自動車工業会)

3 研究部会(一般社団法人 日本損害保険協会 自賠責運用益拋出事業 による研究助成)

平成27年度における研究系各委員会の主な活動状況は、資料 報2-2別表(p. 30～38)の通りである(順不同)。

第三 啓発・広報事業の実施

1 第6回賛助会員懇談会の開催

平成28年1月22日(金)、賛助会員11名の出席を得て、昭和大学病院・教育研修室(東京都品川区)にて開催された(主催者側出席者は有賀会長ほか理事など6名と事務局)。

会長の開会挨拶の後、三宅理事・坂本理事がそれぞれ講演を行い、質疑応答に応じた。テーマは、以下の通り。

三宅理事：「高齢者と疾患との関係-交通事故につながる危険性について-」

坂本理事：「市民のための応急処置-いざという時のために」

参加者からは、高齢化社会の構造について、またそのほか講演内容についての意見などが寄せられ、交通と医療の関連について高い関心を持って聴講いただけたと思われる。今回、学会運営に関する具体的な要望などの意見は余り見られなかったが、和やかに終了の後、好評が寄せられるなど交流の好機となったと考えられる。

2 交通科学シンポジウム・交通科学安全セミナー

平成 27 年度は、3 月 2 日（水）に、以下概要の通り「第 11 回 交通科学シンポジウム」を開催した。

- ・日 時：平成 28（2016）年 3 月 2 日（水）午後
 - ・会 場：新御茶ノ水の連合会館（東京都千代田区駿河台 3）
 - ・参加者：事前申込のほか当日参加も含めて 51 名（場所制約等諸般事情により若干抑えた結果）
 - ・メインテーマ：体調変化に起因した自動車事故を予防する取り組み
- プログラムと講演要旨

- ・開会挨拶 13：30～13：35 有賀 徹 会長
- ・講演（20 分） 「体調変化に起因した事故の実態と予防の重要性」 一杉 正仁
- ・シンポジウム 1（20 分） 「精神疾患患者の自動車運転について」
上村 修一（宇都宮西ヶ丘病院）／堀 彰（同）／羽場 篤嗣（同）／
一杉 正仁（滋賀医科大学医学部社会医学講座法医学部門）／
桂川 修一（東邦大学医学部精神神経医学講座〔佐倉〕）
- ・シンポジウム 2（20 分） 「安全運転に向けた薬剤処方と服薬指導」
木津 純子（慶應義塾大学薬学部）
- ・シンポジウム 3（20 分） 「事故予防に向けた事業所の役割と社会的責任」
馬場 美年子（慶應義塾大学医学部 総合医科学研究センター）
- ・シンポジウム（20 分） 「産業衛生分野における事故予防対策 ―バス交通機関での実態調査―」
福本 正勝（社会福祉法人 長岡福祉協会首都圏事業部）
- ・総合討論（35 分）
- ・閉会挨拶 三宅 康史 理事

3 提言「救急車に『再帰性に富んだ反射板（材）』の使用を！」を関係諸方面へ提出

平成 27 年 8 月、日本救急医学会・日本臨床救急医学会と連名で「救急車に『再帰性に富んだ反射板（材）』の使用を！」と題する提言をとりまとめ、国土交通省自動車局・総務省消防庁・全国消防防長会等の関係諸方面へ提出し、同時に趣旨説明を行って、実現に向けた訴求活動を実施した。

これは、夜間の高速道路上でトラブルに見舞われ照明を失った救急車が停止し周囲に異常を知らせようと車外に出た救急救命士が後続車と接触し絶命した悲惨な事故の実例について、吉沢彰洋会員（北アルプス広域消防本部）が本学会第 50 回学術大会において報告したことに端を発するもので、関係者が防止策を検討し、無電源でも被視認性を向上でき周囲にいち早い注意喚起が図れる方策として「回帰性反射材」の車体へ装着が好ましい、との結論に至ったことに依っている。

回帰性反射材の車両への装着は「灯火」の一種と見なされ、色や装着方法などに厳しい制約があるため、今回の提言はそれに抵触せずに反射材本来の意義である「事故回避と人命の尊重」に資する様、救急車を配備・運用する消防・救急実務者はもとより、車検等に際しても適切な指導・措置が得られるべく理解を求める内容となっている。

これについては各方面とも多大な理解と関心を持って受け止めていただき、国土交通省自動車局技術政策課からは 8 月下旬に各地方運輸局・自動車検査独立行政法人・日本自動車整備振興会連合会など車両審査関係の諸方面宛、また 9 月初頭には消防庁救急企画室から各都道府県消防防災主管課宛、全国消防長会からも所属会員である全国の消防・救急の拠点に向けて、それぞれ事務連絡を発信いただくなど早速の周知・検討が開始されたとの報を聞くに及んでいる。

また早速に、実現に向けた試作車の検討も目下行われつつある（会誌 Vol.15 No.3 の報告を参照）。

4 出版物の発行

平成 27 年度に発行した調査研究報告書等は、以下の通り。

- ・日本交通科学学会誌 Vol.15 No.1～No.3
（前出、学会誌編集委員会の項を参照）
- ・運転者の体調変化による事故発生状況の実態調査と交通事故死低減に向けた効果的予防対策の提言 平成 23～25 年度報告書（損害保険協会自賠責運用益拠出事業） 平成 27 年 11 月
- ・医療から見た交通事故と傷害に関する研究 平成 26 年度報告書（自動車工業会委託研究事業）

平成 27 年 12 月

5 学会ホームページの運用など

(<http://www.jcts.or.jp/> → <http://jcts.umin.ne.jp/> へ URL 変更)

平成 14 年 4 月より開設し情報公開の充実に努めてきたが、平成 27 年 7 月の事務局機能移行を契機とし、運用上の利便等の観点からプロバイダー、サーバーを変更した（事務局メールアドレスも変更となっている）。

これらの変更についてはホームページ上、また事務局発信のメール署名等にも明記するなど、機会を捉えて周知に努めている。

目下、意匠・内容などの大きな変更は加えていないが、法人名称など内容等に未修正が散見されるため、目下順次修正作業中である。

またホームページからの入会申し込みや学术论文開示等にも対応すべく、改良を検討している。

今後時勢に鑑み適宜改良・活用を図るべく、各委員会代表からなる「広報・HP（ホームページ）アップデート委員会」を組織したので、さらなる展開を意識していきたい。

（開示事項）

日本交通科学学会の紹介(会長挨拶・理念等)

同 公益法人概要(役員名簿、事業報告、事業計画、決算、予算等)

同 活動の概要

- ・ 調査研究活動
- ・ 総会・学術講演会(講演募集、プログラムの案内等)
- ・ 広報・啓発活動(シンポジウム、セミナーの案内等)
- ・ 学会誌
- ・ 入会案内、その他(トピック、リンク等)

以上

研究課題・研究項目	委員長または研究責任者	終了予定	備考
1. 自動車の安全運転に関する研究	自動車安全運転研究委員会 委員長 大久保 堯夫		継続 (日本自動車工業会)
自動車運転者の運転時における 標識の視認性に関する研究	三林 洋介 (首都大学東京都立産業技術高等専門 学校 教授) 阿久津 正大 (玉川大学工学部 教授)	27年度	同 上
2. 医療から見た交通事故と傷害に 関する研究	交通事故の救急医療研究委員会 委員長 三宅 康史 (昭和大学医学部救急医学講座 教授)		継続 (日本自動車工業会)
(1) シミュレータ等を用いた交通事故誘因の分析			
①自転車運転シミュレータを利用した VR環境下における安全確認行動の加 齢比較～ドライバーが留意すべき危険 な自転車の特徴	水戸部 一 孝 (秋田大学大学院工学資源学授)	27年度	同 上
②体調変化に起因した交通事故例を 用いた先進事故通報システムの研究	一杉 正仁 (滋賀医科大学社会医学講座法医学 教授)	〃	同 上
(2) 交通外傷医療の解析・評価			
①最新のJTDBを用いた交通事故現 場と来院時のバイタルサイン変化と解 剖学的重症度との関係	三宅 康史 1) 山下 智幸 2) (昭和大学医学部救急医学講座. 1)教授. 2)医局)	〃	同 上
②日本外傷データバンク(JTDB)を用 いた自動車(4輪車)交通事故の同乗 部位別損傷形態、予後に関する実態 調査	藤田 尚 1) 坂本 哲也 2) (帝京大学医学部救急医学講座 1)講師.2)教授.	〃	同 上
③佐渡島における交通事故の現状並 びに救急搬送体制を地理情報システ ムを用いて調査検討する。	高塚 尚和 1) 山内 春夫 2) (新潟大学大学院医歯学総合研究科法 医学分野 1)准教授. 2)教授)	〃	同 上
④地理情報システム(GIS)を用いた交 通事故後の救急救命率の地図上解 析:小児救急の基地推定可能性の検 討	澤口 聡子 (帝京平成大学地域医療学部・大学院 健康科学研究科 教授)	〃	同 上
3. 交通科学ライフサイエンス関係文 献リストの作成 (平成27年の文献を対象)	交通科学文献調査委員会 委員長 大倉 元宏 (成蹊大学工学部 教授)	27年度	同 上

4. 体調変化に起因する事故を予防するためのモデル事業の展開 (実態調査と効果的対策の実施)	自賠償運用益助成研究委員会 委員長 一杉 正仁 (滋賀医科大学社会医学講座 法医学教授)	27年度	継続 [助成] (日本損害保険協会)
①体調変化に起因する事故を予防するためのモデル事業の展開 (実態調査と効果的対策の実施)	一杉 正仁 (滋賀医科大学社会医学講座 法医学教授)	〃	〃
②体調変化に起因する事故を予防するためのモデル事業の展開 (実態調査と効果的対策の実施)	木津 純子 (慶應義塾大学薬学部)	〃	〃
③体調変化に起因する事故を予防するためのモデル事業の展開 (実態調査と効果的対策の実施)	福本 正勝 (長岡福祉協会)	〃	〃
④体調変化に起因する事故を予防するためのモデル事業の展開 (法律・判例・制度の観点から)	馬場 美年子 (慶應義塾大学医学部総合医科学研究センター)	〃	〃
⑤疾病罹患者における交通事故発生状況の実態調査 (内分泌代謝内科医の立場から) ～糖尿病患者における、運転中の低血糖発作と交通事故との関係～	松村 美穂子 (上都賀総合病院 糖尿病センター センター長)	〃	〃
⑥体調変化に起因する事故を予防するためのモデル事業の展開 (実態調査と効果的対策の実施)	上村 修一 (宇都宮西ヶ丘病院)	〃	〃